



二宮尊徳の現代的意義について

(つづき)

2007年6月9日、京機九日会 講演、於 大阪中央電気倶楽部

S36 卒 井上 恵太

トヨタ・コンポン研究所

而立

そして、30歳「而立」からの10年間は、尊徳にとって苦しくともまことに充実した年月であった。すなわち、31歳で田畑3町8反余を所有するまでになり、結婚。名実ともに「家」の再興をはたした。32歳、かねて懇望されていた「服部家仕法」を引き受ける。これは、その後30数年を要し、「仕法」の有効性を人々に知らしめるとともに、尊徳畢生の大事業である「桜町仕法」へとつながるものであった。小田原藩主大久保忠真はかねて、自分の藩内にこのように優れた人物がいることを知って、小田原藩自体の仕法をおこなわせたいと考えた。事実、32歳の尊徳は藩主によって表彰されている。しかし、上級藩士達はこれに反対し、「尊徳のような土民をあげて、群臣の上に置き、国政に任ずることは、不服をまねき、災いを生じると申し立てたので、支藩である下野国「桜町」(栃木県真岡周辺)でまず実績をあげさせることとした。「桜町」は土地が痩せ、五穀乏しく、人心もこれに準じて、ねじけ、わがまま、無頼遊惰。戸数も元禄年間に450軒あったものが、逃散等によって文政年間には150軒にまで衰亡し、田畑は荒れ果て茫茫たる草原になっていた。住民達は互いに争い、過去、小田原から派遣された代官達も、あるものは追い出され、あるものは籠絡されてまったく実績があがらないというような状態だったのである。

この依頼を受けたときの尊徳の対応が、彼の思慮深さを示している。彼は3年間もの間、「その任にあらず」として依頼を断り続けたのである。事業の困難さへの思いもあったにちがいないが、依頼する側の覚悟のほどを見極めようとしたのである。事実、十分な後ろ盾なしに、低い身分でしかない尊徳が、この困難な仕事を引き受けたとしたら、十中八、九は失敗したにちがいない。

そして、いよいよ引き受けるに際しては、じつに4回にもわたって、綿密な現地調査を行っている。その内容は「戸別に訪問して、その貧富を見極め、田野に行つて

肥瘦を調査し、人民の勤勉怠惰、水利の難易を観察。 さらに、過去にさかのぼって資料を調査する」という徹底したものであった。

小田原藩への復命がまた、委曲をつくしたもので、「収穫量の厳密な評価」から、始まって、「租税の減免と自力開墾の推進」、さらに、「支配者自身に対するきわめて厳しい費用削減」を答申している。 今日風にいえば、赤字財政の自治体再建の手本ともいうべきであり、われわれは、かれの強い意思と、緻密な実行計画に学ばなければならない。 尊徳の現代的意義の第3である。

そして、その説明も単なる理財的なものにとどまらず、彼の幼少からの儒学の勉強からくる「人間理解」に基づいているために、藩主に深い感銘を与え、その後の「仕法」の強力な後ろ盾になってもらうことが出来たのである。 さらに、いよいよ桜町へ赴任するにあたっては、辛苦して再興した、田畑、家、財産のすべてを売り払い、不退転の決意をもってのぞんだ。 妻にも覚悟のほどを確認し、3歳の子を連れていく。 今、これほどの覚悟をもって再建の難関にあたることの出来るものがどのくらいいるであろうか。 尊徳が身を以って示した第4の教訓である。 こうして、文政6年37歳の5月から、「桜町仕法」が開始された。

不惑

それから、天保2年45歳の第1次仕法終了までの尊徳の行動は、まさに「不惑」の確信に満ちたものであった。 1日4時間程度の睡眠で、短い袴に足拵え、短刀を差して明け方から夜にいたるまで回村し、炎暑、厳寒にも一日としてやめず、一戸ごとに巡視して領地一戸一尺の土地までも掌握した上で、用水を掘り、冷水を抜き、荒地を開き、善人を賞した。 自らも回村中の食事は冷や飯に水をそそぎ、味噌をなめてすませ、村民が食べ物をすすめても一切食べなかった。 陣屋へ帰ると翌日の計画をたて、万事の処置がすこしも滞ることがなく、その神速ぶりに人々は驚嘆したのである。



しかし、古来、人の心には「悪心」があり、長年の悪政に染まった村の指導者達は、私心、ねたみ、我欲から、面従腹背、尊徳が何か着手するごとに故障を訴え、争いをおこし、弱者を虐げ、租税をおさめるべき田畑には肥料をやらざと不作にするなど、妨害をこととした。また、小田原藩主から協力者として派遣された役人の一人は特に反抗的で、身分の低い尊徳を嫌い事業を妨げ、さらには、尊徳の施策が民を苦しめるものであるとして、藩に訴え讒言するまでにいたったのである。

このような事態に尊徳はどう立ち向かったか。彼の真価はむしろこの難関においてこそ発揮され、その対応、出所進退の見事さが藩主をはじめとする重役たちの心を動かした。すなわち、考えられる限りの手をつくしたのに事が順調に進まないのは、自らの誠意がまだ至らないためであると考え、だれにも告げず「成田山」にこもり「21日の断食」を決行したのである。まわりの者は、前非を悔いるとともに、藩主の怒りを恐れ、彼の行方をさがし出し代表者を立てて面会し帰参を乞うた。それはちょうど断食祈誓21日満願の日であったので、彼は粥をとり、1日で20里の道程を歩行して桜町に帰った。反対者は既に江戸に召還されていたので、かれは不在中の無法な処置につき善後策を講じた。そしてこれを契機に陣屋にも村民にも反対するものはなくなり、仕方は順調に進展することとなったのである。

かれは、しかしいつも忍耐をこととしたのではない。それどころか実に積極果敢にことを進めた。かれは当時としては群を抜いた偉丈夫であった上に眼光するどく人の善悪を見抜き、時におよぶと雷のような声で叱ったというから、言われた者はその迫力に震え上がったにちがいない。

ある時、荒地数十町歩を開墾したが、大木が繁茂して山林のようになり領民の力だけでは及ばなかった。そこで他国の者をやとって、数ヶ月で完成させたが、この時かれは、朝は人夫がまだ出ないうちから出て、これを待ち受けて指図し、夕方は人夫が帰った後から陣屋に帰り、人夫を使うこと自分の手足のように自由自在であった。ときに一人の人夫が衆に抜きん出て力を励まし汗をながしていた。小田原からの役人はこれを見ておおいに感心し、尊徳がかれを表彰するにちがいないと考えたが、尊徳は現場へきてその働きをみたけれども一言の賞詞もなかった。しばらくして再びそこへ来た尊徳はこう言った。

「おまえは実に不届きだ。私がここへくれば力を極めて人に抜き出した働きをするが、私がこの場を去れば、きっと怠けるだろう。何故かという、人の力には限りがあるからだ。このように働いて力を尽くしたら、一日で倒れてしまうにきまっている。もし、そうでないというなら、私が一日中ここに居てためしてやろう。どうだ、それができるか。」人夫は驚いて平伏して答えなかった。

「おまえのような、人をだましてうまいことをしようとするような者は、私のところでは使わない。早く立ち去れ。」と。まわりの取り成しで許しはしたが、人々は尊徳の眼識の鋭さに驚嘆したという。

また、別に一人の老いた人夫があった。年は60歳ぐらいで、終日木の根株を掘り続け人が休んでも休まなかった。しかし、小田原の役人は「かれは人並みの働きが出来ない。それで、木の根にばかりかかっているのだ。」とひそかに嘲っていた。開墾が成就した後、尊徳はかれをよび、生国、働きにでた事情を聞いたあとこう言った。「おまえは皆のものに抜きん出た働きをしたので褒美を与えたい。」驚いて固辞するかれに「私はこの土地を再興するために多くの人夫を使っている。その者達の実際の働きを見定めなくて、いい加減に誉めたり叱ったりはしない。おまえの働きを見ていると、一度も自分の働きを認めてもらおうとせず、大勢のものが起こしやすい所を選んで自分の働きを上のものにみせようとするのに、みんなのいやがる木の根を掘って力をつくして怠らなかった。人が休んでも休まず、どうしてかときかれれば年にとって力が足りぬからだと言って一日中骨を折った。おかげで開墾が早くできた。これは全くおまえの実直な働きのおかげだ。これを誉めずに、要領ばかりのほかの者と同じにしている、これから先どうして工事の成績を上げることができようか。この金は天がおまえの正直な心に対して与えてくれるものだ。早く持ちかえって貧苦をのがれ、老後を養う足しにするがよい。そうすれば私も喜ばしいのだ。」といて再びこれを与えた。老人はこの言葉に感動し、あふれる涙は着物をぬらし、合掌平伏してろくろく感謝のことばも出ず、金を押し頂いて故郷へ帰っていった。小田原の役人も村人達もはじめて老人が並の者でなかったことを知り、尊徳の明敏さと心の深さに感じ入ったという。

もとより、「人の善悪」を見抜くことだけではない。天保4年(1833年)の初夏は気候が不順で梅雨が長くつづいてやまなかった。ある時茄子を食べると「秋茄子」の味がした。有名な話だが、かれは「今時節は初夏だというのに秋茄子の味がするというのは只事ではない。これでは、米が豊熟できるはずがない。」と考え、桜町三か村に触れを出した。「今年は米が熟作できないであろう。今のうちに凶荒のそなえをせよ。1戸ごとに畑1反歩ずつ租税を免除するから、ひえを播き飢渴をのがれる種とせよ」。村人達は「いくら尊徳先生が知恵があっても、前もって豊年か凶年かを見抜けるわけではない。それに食えもしないひえをそんなに作ってどこへ蓄えるのか。」とあざわらい、恨むものさえあったという。しかし、真夏になっても降雨が多くて冷気がみなぎり、ついに凶年となり関東・奥羽の飢民は数知れなかった。三か村の民はひえによって食料不足をおぎない一人として飢えず、はじめて尊徳の明察に感謝したのである。その後は尊徳の判断をあざ笑うものはなく、翌天保5年から三年間ひえの備蓄につとめたので天保7年の大飢饉にも餓死者を出すこ

ともなく、貧者にいたっては、配給のおかげで、豊年の年よりも豊かな暮らしができたという。

こうして、10年間の努力と知恵によって桜町三か村の復興は見事に完成したのであるが、ここで尊徳はさらに「百姓永続の道」をはかったのである。

すなわち、従来の3000俵の租税はこの瘦薄の土地に対しては過酷すぎ、それが衰廢の極に至った原因であることを考察し、調査結果にもとづいてむかしの7掛けの税率で2000俵を定額とし、これによって領主宇津家の分度を確立した。これはその初め、小田原侯の命令を受けるにあたってこの土地の自然の税額を予測して申し出た数字である。ひとびとは尊徳が始めによく終わりを計ったことに驚嘆した。宇津家は衰時の倍量の租税を得て喜び、領民もまた、むかしの税額より1000俵を減じられた恩恵に感動した。積年の尊徳の丹精により、他国の旅人がこの村にさしかかると、輝くような美観に驚き、たぐいのない富裕な良い土地とほめたたえるに至ったのである。時に尊徳45歳であった。

この壮年期の尊徳の働きは誠に見事というほかはないが、「立志」、「而立」と進めてきた人が「不惑」の境地に達した時、どんなに素晴らしいことを成し遂げることができるかを示して、われわれに感動と勇気を与えてくれる。時代は変わっても人のなすべきことに大きな違いがあるはずはない。かれのこれら一つ一つの行動が、何が根本的に大切かを考えさせてくれ、迷い多い現代人への導きとなっているのである。尊徳の残した第5の教訓である。

(つづく)

—— 京機短信への寄稿、宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail : jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。

宜しくお願い致します。

アイアンブリッジ溪谷博物館

The Ironbridge Gorge Museums

(つづき)

吉田 英生 (航空宇宙工学専攻)

yoshida@mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jp

5. 世界初，文字どおりの Ironbridge へ

Enginuity の横手の道をしばらく登ると峠にさしかかる．この峠を 1km ほど下ってラウンドアバウトを左折すると，Museum of Gorge に着く．この博物館の前はバス乗り場にもなっている．博物館の中には，The Prince of Orange が 1796 年 8 月 12 日に訪問したときの Ironbridge の町並みが全長 10m 以上の模型で示されている．まず Severn 川上に浮かぶおびただしい数の帆船に，前述の "the second busiest river" を実感する．イギリスの町は，れんが造りの建物が中心で現在への連続性が強いので，これらの帆船がなければ，そして道路の舗装を無視すれば，町の賑わいから判断する限り，この模型と屋外の町のどちらが現在なのかわからなくなるのではないかと思った．博物館の建物の中に入らなくても町中が博物館といっても過言ではない Ironbridge で唯一現代的なものは，バス乗り場の背後に迫る火力発電所 (<http://www.eon-uk.com/578.aspx>) のれんが色の冷却塔 (図 13) ではなからうか．

Museum of Gorge を出て川沿いに 500m ほど登ると，右手にこの地域の象徴でもある文字通りの Ironbridge が現れる (図 14)．これは Thomas Farnolls Pritchard が 1775 年に設計し，Abraham Darby III が尽力して 1779 年に完成したものである．世界初の鉄製の橋であり，スパン長は 30.6m，使われた鉄は 380 トン．この地域だけでなく産業革命の象徴である．明石海峡大橋 (主塔高さ海面上約 298 m) やフランスのミヨー大橋 (The Millau Viaduct: 地上より橋塔の高さ 343 m) のような巨大な橋も見慣れてしまった現代人にとっては小さく映るが，当時の鉄の生産量から考えれば巨大プロジェクト



図 13 Musium of Gorge のそばの火

トであったことは想像に難くない。なお、この橋を渡ってすぐ右側にインフォメーションセンターがあり、さらに上流川に向かえば Jackfield Tile Museum や Coalport China Museum もある。



図14 文字どおりの Ironbridge

6. むすび：世紀単位の時間スケールの中で

あらためて考えてみると、エネルギーの単位である [J] も [W]

も、温度単位の中で最も本質的な [K] も、すべて英国人にちなんでいる。18・19 世紀に世界を引っ張ったのは英国であった。その技術も学術も文化も国境を越え、世界の人類が多大な恩恵に浴することになった。

18 世紀といえば、わが国では鎖国下で、元禄 15 年（1702 年）赤穂浪士の討ち入り、吉宗による享保の改革（1716 ~ 1745 年）、田沼時代（1767 ~ 1786 年）、松平定信による寛政の改革（1787 ~ 1800）などの時代である。この時期に近代の準備が英国を中心とするヨーロッパでなされたことを実感したのが今回の Ironbridge 訪問における強い印象である。

同時に、われわれが現在行っている活動や仕事は歴史の中でどのように位置付けられるか、あるいは不幸にも消えてしまわないか。今回 300 年前から 200 年前に遡ってみたことを未来に移し替えて、2200 ~ 2300 年の人々が、われわれのことをどのように評価するのか？ そのような視点から、全体からはケシ粒のような存在ではあるが、自分のこれからの仕事をどうするのか、また残された人生をどのように生きるのか、など目の前の時間スケールから世紀単位の時間スケールの変換を与えてくれた今回の Ironbridge 訪問でもあった。

参考文献

以下の文献は、全般的に参考にさせていただいたので、本文中では特に箇所を明記して引用していない。

[1] Ironbridge A World Heritage Site, The Ironbridge Gorge Museum Trust Ltd and Jarrold Publishing, ISBN 0-7117-0891-6 (1996).

[2] The Ironbridge and Town, The Ironbridge Gorge Museum Trust Ltd and Jarrold Publishing, (2001).

[3] Coalbrookdale and the Museum of Iron, The Ironbridge Gorge Museum Trust Ltd and Jarrold Publishing, (1996).

[4] 森本哲郎, 文明の主役 - エネルギーと人間の物語 -, 新潮社 (2000).

(おわり)

Info

「経済財政改革の基本方針2007」関連話題のご紹介です。

- 1 . 「経済財政改革の基本方針2007」の閣議決定について
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizai/kakugi/070619kettei.pdf>
- 2 . 経済財政諮問会議(平成19年第18回)議事次第
<http://www.keizai-shimon.go.jp/minutes/2007/0619/agenda.html>
- 3 . 「経済成長戦略大綱」の改定について
<http://www.meti.go.jp/press/20070619006/20070619006.html>
http://www.meti.go.jp/press/20070619006/01_press.pdf (PDF形式:112KB)
経済成長戦略大綱のローリング・改定について(概要)(PDF形式:128KB)
http://www.meti.go.jp/press/20070619006/02_about.pdf
経済成長戦略大綱本文(PDF形式:531KB)
http://www.meti.go.jp/press/20070619006/03_taikou.pdf
経済成長戦略大綱 工程表(PDF形式:566KB)
http://www.meti.go.jp/press/20070619006/04_koutei.pdf
- 4 . 基本方針(骨太方針)2007～注目される成長力拡大の実現性
http://www.nli-research.co.jp/report/flash/2007/flash07_031.pdf
No.07-031 2007/06/20 基本方針(骨太方針)2007
～注目される成長力拡大の実現性
http://www.nli-research.co.jp/report/flash/2007/flash07_031.pdf
- 5 . 「基本方針2007」における税財政改革
～財政推計、租税原則の徹底が今後の課題～
<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/policy-insight/MSI070622.pdf>
調査レポート(みずほ政策インサイト [2007.06.22])
「基本方針2007」における税財政改革
～財政推計、租税原則の徹底が今後の課題～ [NEW]
<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/policy-insight/MSI070622.pdf>

経済財政諮問会議(平成19年第18回)

説明資料

経済財政改革の基本方針2007

<http://www.keizai-shimon.go.jp/minutes/2007/0619/item1.pdf>

「基本方針2006」別紙の主要な分野における制度改革等の取組(内閣府)

<http://www.keizai-shimon.go.jp/minutes/2007/0619/item2.pdf>

配付資料

内閣総理大臣からの諮問第20号について

<http://www.keizai-shimon.go.jp/minutes/2007/0619/item3.pdf>

経済財政改革の基本方針 2007 について（概要図）

<http://www.keizai-shimon.go.jp/minutes/2007/0619/item4.pdf>

経済財政改革の基本方針 2007 のポイント

<http://www.keizai-shimon.go.jp/minutes/2007/0619/item5.pdf>

経済成長戦略大綱（平成 19 年 6 月 19 日改定）（甘利議員提出資料）

<http://www.keizai-shimon.go.jp/minutes/2007/0619/item6.pdf>

国有財産の有効活用に関する報告書（尾身議員提出資料）

http://www.mof.go.jp/singikai/zaisanfollow_up/siryou/20070615/houkoku.pdf

全国の自動車関連企業マップについて

<http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/CarMap.html>

経済産業省は、自動車産業の裾野である素形材企業の存在を広めるため、全国の自動車関連企業のマップを作成しました。当マップは約 12,000 の企業を網羅し、都道府県別及び 8 地域別に整理しています。

【都道府県別マップ】

http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/Report/CarMap/MAP_0705.pdf

1．北海道エリア

<http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/Report/CarMap/hokkaido.pdf>

2．東北エリア

<http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/Report/CarMap/tohoku.pdf>

3．関東エリア

<http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/Report/CarMap/kanto.pdf>

4．中部エリア

<http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/Report/CarMap/chubu.pdf>

5．近畿エリア

<http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/Report/CarMap/kinki.pdf>

6．中国エリア

<http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/Report/CarMap/chugoku.pdf>

7．四国エリア

<http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/Report/CarMap/shikoku.pdf>

8．九州・沖縄エリア

http://www.meti.go.jp/policy/sokeizai/Report/CarMap/kyusyu_okinawa.pdf

KART 2007

京都大学フォーミュラプロジェクト KART
プロジェクトリーダー 堀内 亮

E-Mail: ryo.horiuchi@t03.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

去る7/6(金)琵琶湖スポーツランドにおいて、新車両 YJ-R05 のシェイクダウンを無事済ませることができましたことをご報告申し上げます。



当日は車両セッティングに時間がかかり、実走行時間は 15 分程度とあまり時間をとることができませんでした。その中でもさまざまな問題点が現れ、今後の課題として浮かび上がってきました。主なところでは、キャンバー角調整幅の不足、リアブレーキの固着、エンジン制御の不安定さなどです。また、今後テスト走行を続けるなかで耐久性不足などによる部品の破損なども考えられます。それらを一つずつ解決していきながら、車両の完成度を高めていくと同時に、それらのデータをノウハウとして蓄積して今後の活動に繋げていきたいと思っています。また、走行を重ねることでドライバーの技量向上も図りたいと考えています。

ともあれ、シェイクダウンを無事済ませることができましたことは、ひとえにご支援ご声援いただきました先生方はじめ、多くの方の支えがあったのものと深く感謝いたしております。本当にありがとうございました。

これから大会までの二ヶ月間、走行練習と改良を繰り返して車両を仕上げて生きたいと思っています。また、同時にドライバーの練習、育成にも力を注いでまいりたいと思います。メンバー一同、なお一層の努力を重ねてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大会ですが、本年度は下記要領にて開催されます。

第五回 全日本学生フォーミュラ大会

日時：2007年9月12日(水)～15日(土)

場所：エコパ(静岡県掛川市 小笠山総合運動公園：<http://www.ecopa.jp/>)

開催スケジュール：

9/12(水)：車検、静的審査

9/13(木)：動的審査(アクセラレーション、スキッドパッド、オートクロス)

9/14(金)：動的審査(エンデュランス)

9/15(土)：動的審査(エンデュランス)、デザインファイナル、表彰式

お時間に余裕のある方はご来場頂き、ご声援いただければ幸いです。

諸先輩方をお願い申し上げます。

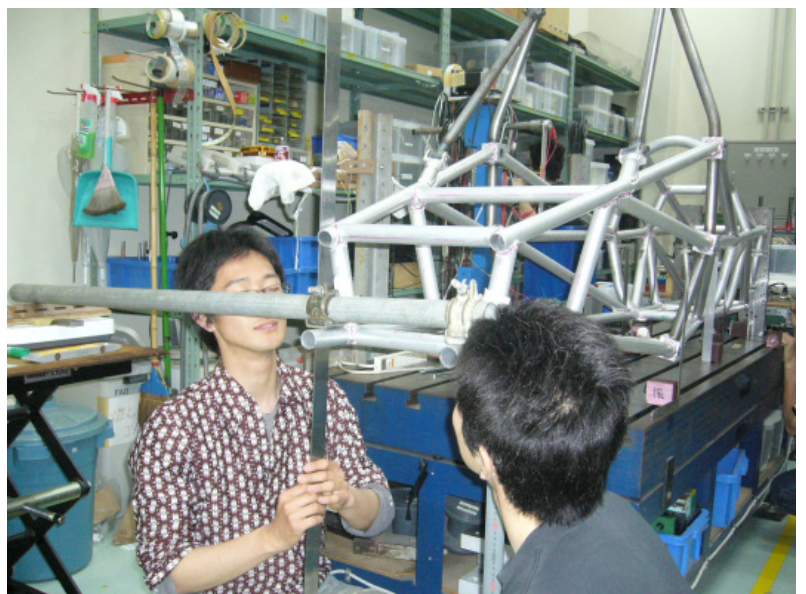
車両製作もさることながら、テスト走行は車両運搬用のトラックの手配、サーキットの使用料、輸送代など多額の金銭がかかることが見込まれます。すでに多くの先輩方からご支援をいただいておりますが、昨年度よりもさらに多くのテスト走行を重ねて熟成させ、できるだけ良い状態で大会に臨みたいと考えており、資金的に苦しいのが現状です。毎年のお願いで心苦しい限りではありますが、本年度も皆様からの金銭的支援をいただきたく、宜しくお願い申し上げます。

支援方法ですが、下記振込先への振込か、あるいはKART関係者へ直接ご支援いただければ幸いです。

京都銀行 銀閣寺支店(店番141)

口座番号：普通預金 3242776

口座名義：KART FA 横小路 泰義





平成 19 年度異業種交流会 「TOPPAN・SHARP 工場見学会」を振り返って

SMILE 運営委員 櫻井 寿

h.sakurai@hy7.ecs.kyoto-u.ac.jp

6月18日に、京機学生会執行部（以下 SMILE）は京機会関西支部との共催という形で、平成 19 年度異業種交流会として凸版印刷三重第一工場とシャープ亀山工場の見学会を行うことになった。事前の広報活動により 27 名の学生からの応募があり募集定員を上回る結果となったが、本企画担当教員である田端先生の研究室に所属する学生が多数を占める結果となってしまう、SMILE 広報活動の方法に関する問題以前に、学生の本企画に対する関心の薄さを露呈する結果となってしまったことは非常に残念である。SMILE に関係する学生には、一般の学生の参加を妨げないよう参加を自粛する傾向が見られたようだが、本企画の内容に真に関心を持っているのであれば SMILE 関係者でも遠慮することなく参加応募してもらいたいと田畑先生はおっしゃっていた。実際に参加した学生も興味は持っていたと思われるが、工場の方に質問できる機会が設けられても質問をしなかったことは反省すべき点である。

凸版印刷三重第一工場では、まずトッパンがどのような事業を展開していて、印刷技術において培ってきたノウハウがどのように生かされているか、またそのノウハウにより製造されたフォトマスクがシャープの液晶テレビ製造を支えている様をプ



レゼンされ、凸版印刷がどのような企業なのか知ることができた。しかし、工場見学に関しては窓から工場の内部をほんの少し覗いただけで、作業の様子までは見せてもらえなかった点は残念であったと思う。むしろ、ブラックボックスと呼ばれているシャープの亀山工場の方が、中の作業の様子についてよく紹介されていたように思われ、工場見学としての満足度はシャープ亀山工場の方が良かったと思う。

最後に、私が本企画に参加して感じたことは、このような工場見学会が学生にもっと興味を持ってもらうために、当日のより具体的なスケジュールを募集段階で明示しておくことの必要性である。その中に学生の興味を集めそうなものを組み入れ、当日にそれを体験できることを学生が心待ちにできるほどのものが用意できれば、企画側としては十分ではないかと思われると同時に、今回の反省するべき点であったと思う。